

宮城県感染症発生動向調査情報(第31週)

宮城県【平成26年08月07日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

- 2014.7.28 ~ 8.3 ・ 第31週 -

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙 台 市				宮 城 県 (含む仙台市)			
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第28週	第29週	第30週	第31週	
水痘	2 0.40	2 0.20			2 0.67	3 0.60	5 2.50	6 0.23	20 0.34	1,306	レ→	→	○→	レ	
流行性耳下腺炎			1 0.20		3 1.00			15 0.58	19 0.33	414	→	○→	レ→		
百日咳				1 0.50				1 0.02	6	6	→	→	→		
感染性胃腸炎	29 5.80	17 1.70	6 1.20	13 6.50	17 5.67	9 1.80		87 3.35	178 3.07	13,735	◎→	◎→	◎→	◎	
手足口病	3 0.60	3 0.30	2 0.40			4 0.80		11 0.42	23 0.40	145	→	→	→		
伝染性紅斑	3 0.60	1 0.10	3 0.60		12 4.00	19 3.80		17 0.65	55 0.95	1,636	◎→	◎→	◎→	◎	
突発性発しん	2 0.40	5 0.50	3 0.60		4 1.33	5 1.00	3 1.50	23 0.88	45 0.78	1,179	◎→	○→	○→	○	
ヘルパンギーナ	8 1.60	20 2.00	7 1.40	34 17.00	34 11.33	15 3.00	2 1.00	49 1.88	169 2.91	422	○→	○→	◎→	◎	
インフルエンザ											→	→	→		
咽頭結膜熱	1 0.20	6 0.60				1 0.20	1 0.50	4 0.15	13 0.22	460	レ→	○→	レ→		
流行性角結膜炎		2 0.67						2 0.17	90	90	→	→	→		
急性出血性結膜炎											→	→	→		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7 1.40	5 0.50	2 0.40	1 0.50	1 0.33	16 3.20		25 0.96	57 0.98	4,019	◎→	◎→	◎→	◎	
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	2 2.00							2 0.17	13	13	→	→	→		
無菌性髄膜炎											→	→	→		
マイコプラズマ肺炎			2 2.00				2 2.00	3 0.60	7 0.58	266	→	→	→		
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→		
RSウイルス感染症						1 0.20		6 0.23	7 0.12	374	→	→	→		
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		14	1			1	1	◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向						
	川崎病							2	【週報の詳報】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansen-center/						
	不明発疹症		1					13							
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※								52						

今週の全数報告疾病			
1類感染症: 報告なし			※男児、女兒は6歳未満
2類感染症: 結核	仙南管内 男性2名 塩釜管内 男性1名 栗原管内 男性1名(第30週) 登米管内 男性1名 仙台管内 男性2名、女性2名		
3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)	仙台管内 女性1名 腸管出血性大腸菌感染症(O26) 塩釜管内 女性1名		
4類感染症: レジオネラ症	仙台管内 女性1名		
5類感染症: アメーバ赤痢	塩釜管内 男性1名 梅毒 石巻管内 男性1名 仙台管内 男性1名		
今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例			
今週の感染症のコメント - 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 -			
【伝染性紅斑】 登米、石巻管内で警報継続中。			
【ヘルパンギーナ】 登米管内で警報値を超えた。 栗原管内で警報継続中。			
【病原体検出情報】 ～仙台医療センターウイルスセンター～			
	第29週採取分 (7.14～7.20)	第30週採取分 (7.21～7.27)	第31週採取分 (7.28～8.3)
パラインフルエンザウイルス1型	2件	1件	0件
パラインフルエンザウイルス3型	3件	2件	0件
ヒトメタニューモウイルス	6件	2件	0件
RSウイルス	0件	1件	2件
アデノウイルス	1件	1件	1件
ライノウイルス	0件	1件	2件
単純ヘルペスウイルス	1件	0件	0件
【ヘルパンギーナ】 夏期に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的疾患である。発熱と水疱性発疹が口腔粘膜にみられる。今年も流行時期となり、栗原、登米管内で患者報告数が警報値を超えていることから注意を要する。			

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第29週) (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第17週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(2.21)、岐阜県(0.07)、秋田県(0.06)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は2例と前週と比較して減少し、2県から報告があった。**RSウイルス感染症**: の報告数は378例と3週連続で増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約78%を占めている。咽頭結膜熱: 定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は群馬県(1.78)、北海道(1.56)、山梨県(1.42)である。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 定点当たり報告数は第23週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は鹿児島県(3.13)、島根県(2.87)、鳥取県(2.68)である。**感染性胃腸炎**: 定点当たり報告数は第22週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は愛媛県(7.65)、大分県(7.03)、島根県(6.57)である。**水痘**: 定点当たり報告数は第24週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は熊本県(1.45)、長野県(1.43)、愛媛県(1.43)、大分県(1.42)である。**手足口病**: 定点当たり報告数は第20週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は福岡県(5.04)、大分県(4.08)、石川県(3.86)である。百日咳の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.32)、千葉県(0.07)、和歌山県(0.06)、大分県(0.06)である。**ヘルパンギーナ**: 定点当たり報告数は第19週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は東京都(9.92)、山梨県(8.63)、大阪府(8.44)である。マイコプラズマ肺炎: 定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は宮城県(1.08)、福島県(0.71)、青森県(0.67)、愛媛県(0.67)である。**感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)**: 定点当たり報告数は第21週以降減少が続いている。6道県から10例報告があり、年齢別では0歳(2例)、1～4歳(7例)、5～9歳(1例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字: 定点当たり報告数